



福島県立橘高等学校

進路だより 第7号

令和6年11月27日

橘高校進路指導部



1 2025年度入試の志望動向

1 全体の状況

大学の志願者は、総合型・学校推薦型選抜でやや増加し、一般選抜での増加は大きくない見込みです。入学定員の変化では、来春も国公立大理工系・情報系学部を中心に入学定員の増員、学部新設で定員が増加する大学がある一方で、私立大では入学定員を減らす大学もみられます。全体として、入学定員は前年並みとなる見込みです。これまで続いていた入試倍率の緩和は一休みとなりそうです。

2 新教育課程最初の入試

来春は新教育課程となって最初の入試ですが、各大学の入試科目などを見ると今回の入試において、共通テストに新教科「情報」が加わるほかは、大きく変わる点はなく、影響は限定的と言えそうです。共通テストの「情報」は、国立大のほとんどで必須としていますが、配点は低く設定している大学が多く、合否への影響は小さいと思われます。公立大では、他教科との選択としている大学も多く、私立大でも、他教科との選択、または利用しないとする大学が大半です。

3 入学定員の動き

国立大では、来春も、理工系・情報系学部を中心に入学定員増の動きがみられます。来春は筑波大（理工、情報）や横浜国立大（理工）、名古屋大（工、情報）、大阪大（工、基礎工）などの一部学科・学類で入学定員が増員となります。また、大学全体の入学定員を変えずに、学部間で移動させるパターンもみられます。来春は和歌山大（システム工）や山口大（国際総合科学）などで定員増となりますが、両大学とも教育学部が定員減となります。近年は入学定員の増員に加え、総合型・学校推薦型選抜の拡大の動きもみられます。来春も一般選抜では後期日程を中心に募集人員を減員し、総合型・学校推薦型選抜を増員する大学があります。しかし、募集人員全体の4分の3は一般選抜が占めており、国公立大のメイン入試が一般選抜であることに変わりありません。

私立大でも定員増の動きはみられますが、それ以上に入学定員を減員する大学があります。定員減の顔ぶれをみると、人文系や教育系、薬学部などが目立ちます。今後も私立大では大学の募集停止だけでなく、入学定員減の動きが活発になることが見込まれます。

4 国公立大学の全体志望動向

国公立大をグループに分けて動向を確認すると、難関10大学（旧帝大+東京科学、一橋、神戸）では、志望者数が前年比103%と増加、準難関・地域拠点大グループ（筑波、千葉、東京都立、横浜国立、新潟など）で同99%、その他大グループでは同100%と難関大志向は継続しました。難関10大学の個別の状況を見ると、東北大、京都大で前年比107%と志望者の増加が目立ちました。東京科学大も前年比104%と志望者が増加しました。また、女子の動向をみると、難関10大学グループで前年比105%、東京科学大では同114%と増加率が高く女子のチャレンジ志向が顕著です。

5 国公立大学の系統別志望動向

全体的な傾向としては、文系・理系、どちらが人気ということはなく、人気は拮抗してい



ます。文系では、「外国語」「地域・国際」「国際関係」で志望者が増加しました。また、「経済・経営・商」で前年比105%と志望者が増加しました。理系では、「理」は108%、「工」は101%と前年より増加しました。難関資格系では「獣医」「歯」で志望者の増加率が高くなりました。一方で学際系の「情報」は、前年比95%と志望者が減少しました。学部の新設・改組にともない募集人員が増加しており、志望者には朗報といえるかもしれません。女子の動向では、文系は「経済・経営・商」で志望者の増加率が高くなりました。理系では、とくに工学で従来から女子比率が高めの「応用化学」のみならず、「機械・航空」「通信・情報」「土木・環境」など、女子比率が低い分野で女子の進出が目立ちました。一方で、「生活科学」「看護」などで志望者が減少しています。

6 国公立大学トピック

新設・改組がある大学として、岩手大（理工）や秋田大（総合環境理工）が挙げられます。前期日程の志望動向は、概ね前年並みに落ち着いています。秋田大（情報データ科学）や山形大（社会共創デジタル）では、それほど志望者が集まりませんでした。次に2次試験の科目を増やす大学を見ると、東京都立大（前期／人文社会、健康福祉などを除く）で英語が増え、志望者は減少しました。募集人員が増加する大学は、福島大（理工一前）、大阪大（工一前、基礎工一前）などです。（参考：河合塾「Kei-Net」）

2 11月の行事から

「キャリアガイダンス（1学年）」

11月6日（水）、本校1年生を対象に、企業の方々の講義を中心とするキャリアガイダンスを実施しました。全10講座×2コマの講義が行われ、生徒は「コンピュータサイエンス」「教育」「理学療法」「経営・不動産」「建築・住宅設計」「食品・研究開発」「教育行政・公務員」「税務・監査」「製造・技術開発」「インフラ・公務員」の講座から希望するもの2つを受講しました。生徒たちは真剣なまなざしで話を聞き、一生懸命メモをとっていました。生徒は進路に関して新たな見方や考え方を身に付けたと思います。進路選択において重要な時期である1



年生にとって大変有意義な行事となりました。以下は生徒の感想です。

「今回の講話を聞いて、今後世の中のため、人のため、地球のために何ができるかを今よりももっと考えていこうと思った。」「地元へ貢献したいという講師の方の思いは見習うべきだと感じた。自分も同じ福島人間として地元へ貢献する気持ちを大事にしたいと思った。」「『雑務・小さなことこそ大事にする』ということばが印象に残った。」「大学や将来の夢が決まっていない今は、いろいろな大学についてたくさん調べて、勉学に励むことが大切だと改めて思った。」「自分がネガティブになったときは少しでも思考をポジティブにして『成功のサイクル』に持っていけるようにしたいと思った。」「『知る者よりも好む者、好む者よりも楽しむ者が強い』ということが確かにそうだなと思った。」「成功の秘訣は何があっても諦めない強い意志と言っていたことを忘れずに、日々の勉強を頑張りたい。」

